

## 北海道十勝連峰・三段山周辺山スキー報告

【山城】北海道・十勝連峰

【日程】2017年1月18日～23日

【メンバー】チーム福島7名（CL渡辺さん）・菊池

【行程】

18日：千葉ー郡山（新幹線利用）ー仙台ー19：30フェリー

19日：フェリー苦小牧港着11：00ー17：00吹上温泉白銀荘（泊）

20日：白銀荘7：15ーバーデン上富良野脇の駐車スペースーベベルイ川渡渉（1010m）  
ー富良野岳ジャイアント尾根1450地点ー滑走ー1250m地点ー登り上げ2本滑走ーベ  
ベルイ川渡渉（1120m）ー駐車地点ー白銀荘ー三段山方向へハイクアップー一段目  
（1200m位まで）ー滑走ー白銀荘

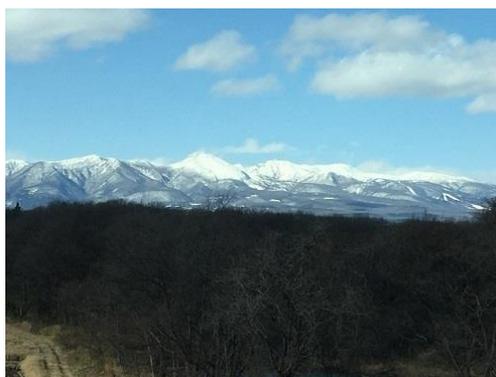
21日：白銀荘（1010m）7：20ー三段山山頂（1748m）ー稜線から滑走（標高約200m）  
ー登り返し（150m）ー滑走ー白銀荘ー登山道ルートー富良野川渡渉ー前十勝方向へ1285  
mまでー滑走ー白銀荘

22日：白銀荘6：30ー三段山標高1380mー林間滑走ー白銀荘ー苦小牧ーフェリー19：00  
発

23日：仙台着9：45ー郡山ー帰葉



- ・昨年GWの利尻山に続き、今回は厳冬期の十勝連峰・三段山周辺の山スキーにチーム福島の計画に参加させていただいた。東京から郡山までの新幹線所要時間は1時間15分と近い、ジパングの3割引を利用、車窓から雪景色の那須連峰を眺めながら間もなく郡山に到着した。

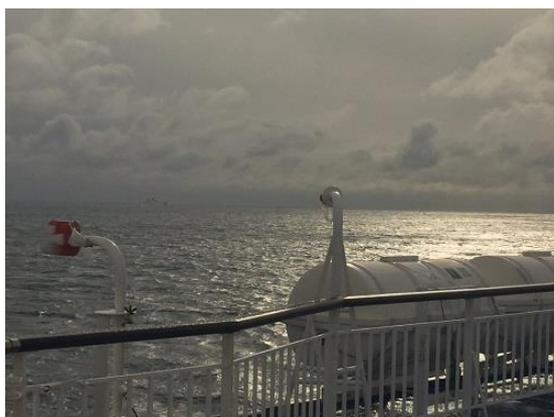


- ・仙台港に到着、乗船手続きが終了すると、ロビー



ーで早速、前祝のビールの乾杯が始まった。船に乗り込む頃には既に、すっかりほろ酔い機嫌。乗船後もまず風呂に入り宴会のやり直し、季節柄、平日でもあり乗客は極めて少ない。席取りの心配もなく、コンビニで購入した夕食とつまみを肴に山スキー談義に花を咲かせた。長い乗船時間、ライブも楽しんだ。

- ・津軽海峡を東進する低気圧の影響で、津軽海峡付近で暴風雪・波がかなり高く、乗船後



初めてかなりの揺れを感じた。苫小牧港入港直前になり気象状況も漸く静まり、雪の苫小牧港に到着した。

道東高速道路が大雪で一部通行止めとなっていたが、なんとか白銀荘に5時前には到着。早速、露天風呂のある素晴らしい温泉で入浴した。平日にもかかわらず、かなりの宿泊客がいる模様、ネットなどで情報



を得た外国人がかなり多くなっている。

標高 1017mにある吹上温泉の町営白銀荘は一泊 2700 円+暖房費 150 円、設備は抜群、温泉は超一級である。数日前までの降雪以降、降雪がなく、宿付近の朝の気温は $-17^{\circ}\text{C}$ ほど（富良野町の最低気温は $-20^{\circ}\text{C}$ ほど）行動日の 20 日～22 日午前中は絶好のツアー日和に恵まれた。

- ・一日目は富良野岳のジャイアント尾根へ、バーデン上富良野の周辺の道路脇駐車スペースは狭く、初日の金曜日を選択した。ベベルイ川の渡渉は先行トレースを辿ってかなり下流で行ったため、尾根への乗り上げはかなりの急斜面となって苦労した。宿で平年の積雪量と伺ったが、まだ十分な積雪量ではなく、急な針葉樹林では凹凸が激しく、藪の濃い部分も多かった。徐々に高度を



上げて行き標高 1250m位になると、開けた林間は快適な滑走ができそうな状況になってきた。森林限界に近づいてくると尾根は細くなってきた。北向き斜面のため、なかなか陽光は差し込んでこない。幸い風が弱いため寒さは何とかなる。写真は 9:30 頃であるが、十勝岳の噴煙付近の雲は照らされている。

十勝岳・三段山のグレイトビューを眺めながら細尾根の 1450m 地点まで登りあげた。



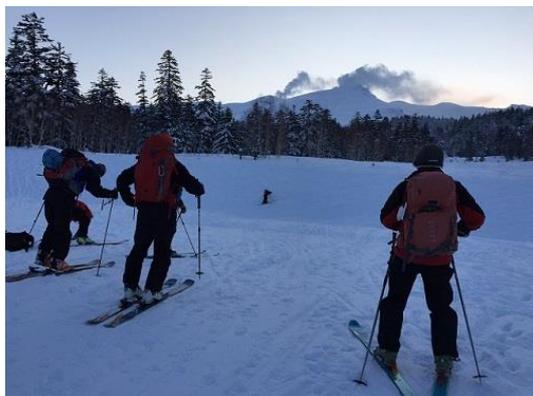
徐々に下地が固い雪面となりシュカブラもあるため、ここからの滑走とした。本日のトップであるが、前日までのシュプールがかなりある。低温のため 25 cm 前後のパウダーは温存されており、標高差 200m～150m の広葉樹の疎林から針葉樹を、シュプールのない所を選びながら、登り返して 3

本楽しんだ。

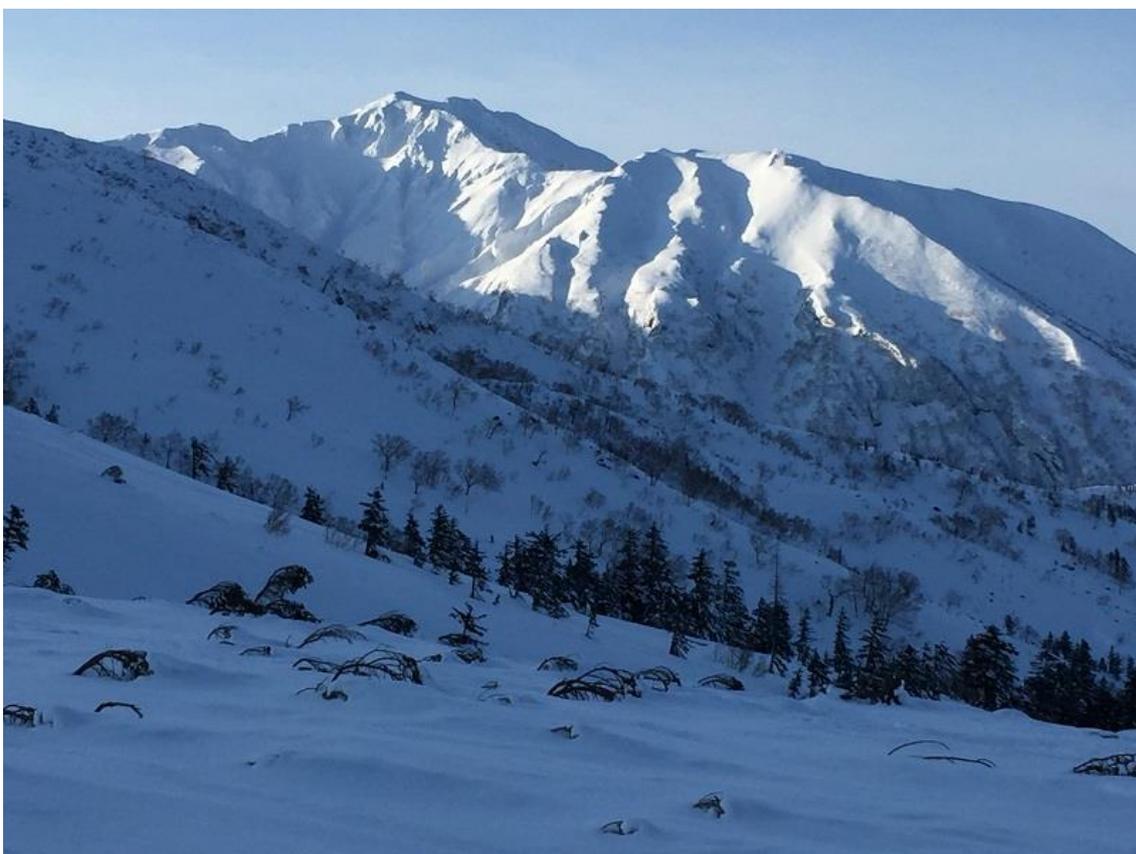
下りはトレース（ほぼガイドブックの登りルート）を辿りベベルイ川の上流を渡渉して出発地点に戻った。宿に戻りさらに三段山の一段目までハイクアップ、林間のパウダーランを楽しんで一日目を終了した。

---

2日目は三段山を目指した。今日も7:17 トップスターとである。2段目に向かう途中にあるダケカンバの3姉妹の左遠方に大雪の最高峰、朝陽に照らされた旭岳を望む。



白銀荘をベースにした三段山周辺は、昔から有名なツアーエリアとして親しまれていた地域である。施設のない国設三段山スキー場の切り開きをハイクアップして行くのである。1段目の針葉樹林を抜け、斜度が増し2段目にトラバース気味に登っていくと、前日滑ったジャイアント尾根から迫力の富良野岳山頂の雄姿が目に飛び込んでくる。

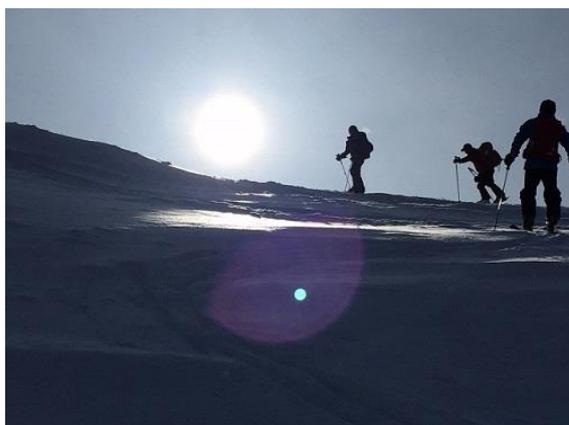


2段目に到達すると、先端が埋まってない針葉樹がかなりある。噴煙付近が朝日に照ら

された十勝岳山頂方面が迫って見え、大迫力である。これぞ、「ザ・北海道の山スキーだ！！」を実感させる瞬間である。隊列組んで、滑走に適した斜面を物色しながら稜線に向かって進む。スタートして約 2 時間、既に 9:15 であり稜線に太陽からの陽光が望まれそうであるが、北西斜面のため日差しがなかなか差し込まない。



気合が入っており、ほぼ無風のため寒くはない。向こうのシュカブラ斜面には陽が射している。今回はチーム福島に参加させていただいている。ルートを物色しながらトッポを行く CL の goro さんに感謝しながら、最後尾でカメラマン役である。ちば山ツアーではいつも CL として、ルーファイを行っている小生はちと気が楽である。そんなわけでこんな幻想的ショットもゲットできた。厳冬期に三段山頂上まで到達するのは至難の業であるが、ルートが新雪で覆われており、快晴無風の願ってもない好条件、いよいよ登頂である。



山頂への稜線直前は少しガリガリバーンであるが、そこをほんの少し頑張ると、新雪で柔らかいルートが山頂へ導いている。しかし右はスパッと切れ落ちて、注意して覗き込むと、ローソク岩？や蒸気が噴出している火口らしき地形となっている。足が地につかないような気分でスマホのシャッターを押した。9:58 スタートして 2 時間 40 分ほど、標高差 730m、ついに 1748m のサミット登頂です。今回の北海道遠征のハイライトです。「バンザーイ、バンザーイ」と叫びたいところですが、狭い山頂は落ち着きません。すばやく記念撮影してもらい、しゃが

んで板を流さないように滑走準備です。



・さあ滑走です。薄い新雪が被っているもののガリガリと滑走音を立てながら、稜線をエントリーポイントに進みます。goroさんが偵察していた最も良い沢地形に、goroさんに続いて飛び込みました。かなりの急斜面、最初の2~3ターンは雪質をチェックしながらアルペンターン、上質のパウダーが溜まっている。テレターンに移行、しっかり雪面をとらえながらスピードコントロールしながらテレターンが決まりました。緩斜面になってくると、上質パウダーにスイングしながら舞うようなテレターンが面白いように決められます。センター100mmのドリフトの威力が今回初めて発揮された感触でした。稜線から続く滑走ラインを振り返りご満悦です。三角形の日陰部分を滑走してきました。



山頂から一本滑り降り小休憩です。皆さんご満悦ですね！！ 後続部隊が続々登頂を目指しています。自然にもう一本ということで、再度ハイクアップです。2本目はどこを滑るか、あそこがノートラで残っている！！と指さしたKさんが先陣を切りました。

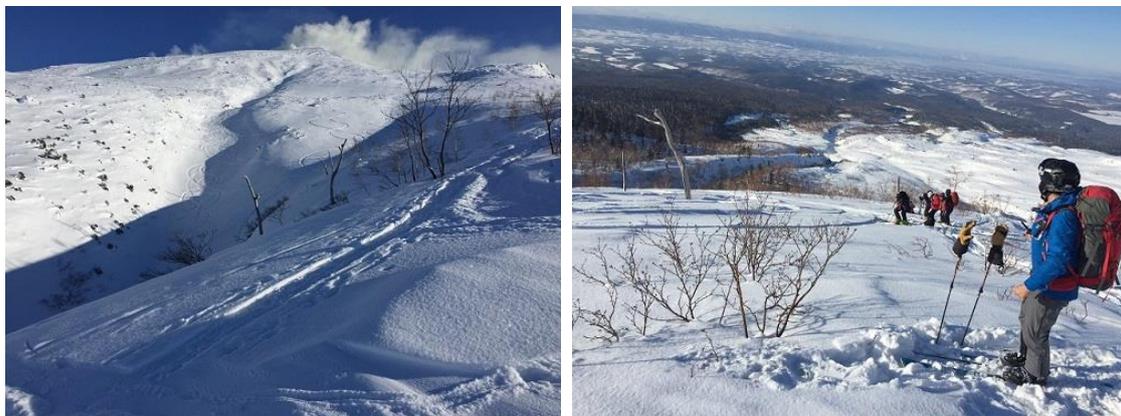


チーム福島の皆さんは元気です。2日目も午後の部があり、前十勝方向に向けてのハイクアップです。十勝岳の山麓は日本離れしたグレートビューです。数日降雪がないのに、こんな広大なオープンエリアなのに、雪の結晶そのものが温存されたサラッサラのパウダーです。外国人が多く入っておりパワフルな若者グループが登りも下りも追い抜いていきました。火山のため地形は複雑です。悪天では迷いま

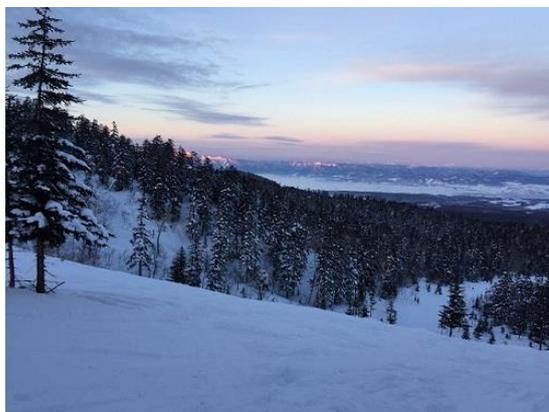


すね！！好天であれば2~3日じっくりいろいろなルートを遊んでみたいエリアです。素晴らしいシュプールが残されていました。

ナマコ尾根を進む予定でしたが、こちらの前十勝に向かう疎林の尾根を 1350m位までハイクアップして 2 日目最後のパウダーランを楽しみました。累計標高差 1000 mほどになりました。



宿に帰り早速温泉へ、露天風呂も素晴らしく土曜日のためか超満員、6 割くらいは外国人で占められているようです。昨日はじっくり入浴しましたが、この日は手際よく汗を流して、ビールを楽しみました。宿に帰り早速温泉へ、露天風呂も素晴らしく土曜日のためか超満員、6 割くらいは外国人で占められているようです。昨日はじっくり入浴しましたが、この日は手際よく汗を流して、ビールを楽しみました。日没前の噴煙を上げる真っ白な十勝岳も印象的でした。



最終日は天気が崩れる予想のため、早々と 7 時直前にスタート、モルゲンロートが綺麗で 2 段目までハイクアップした。滑走はできるだけ林間のパウダーゾーンを選び滑走、素晴らしいパウダーランが味わえた。苫小牧は到着時も大量降雪の直後で高速道路が一部不通、帰りは降りしきる中、順調に到着。乗船前と乗船して入浴直後に北海道限定「サッポロクラシック」を片手に最後の乾杯で締めくくった。

夜明け前、風呂で洗顔、余韻に浸りながらコーヒーをすすりながらご来光を楽しみました。チーム福島の皆様ありがとうございました

